

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 28 年 7 月 7 日 (2016.7.7)

【公開番号】特開 2014-228707 (P2014-228707A)
 【公開日】平成 26 年 12 月 8 日 (2014.12.8)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-067
 【出願番号】特願 2013-108370 (P2013-108370)
 【国際特許分類】

G 0 3 G 15/20 (2006.01)

【 F I 】

G 0 3 G 15/20 5 5 5

G 0 3 G 15/20 5 1 5

【手続補正書】
 【提出日】平成 28 年 5 月 23 日 (2016.5.23)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 8】

特許文献 2 では、給電方式について記載がない。仮に、非接触給電方式を採用したとすると、複数の電極対の中から所望の電極対を選択するためのスイッチが 2 次コイル側に必要となってしまう。発熱体に流れる電流は瞬間で 10 A にも達する。2 次側のスイッチが機械的なスイッチであれば大きなサイズのスイッチが必要となる。これは、回転する 2 次側にとって回転負荷の増加をもたらすことを意味する。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 3】

< 発熱部の説明 >

次に記録材サイズに合わせた発熱部の構成を説明する。図 4 (a) は図 2 (b) の発熱フィルム 4 の部分を示す断面図である。図 4 (b) は、図 4 (a) に示した断面を説明するための図である。つまり、図 4 (a) は発熱フィルム 4 の領域 A の断面を示している。図 4 (a) において、L a はコア部材 2 の内部空間 5 0 に挿入される領域を示し、L b は空隙部 5 1 に挿入される領域を示している。L c は第 1 サイズの記録材にトナー画像を定着するための領域を示し、L d は第 2 サイズの記録材にトナー画像を定着するための領域を示している。なお、領域 L c と領域 L d との幅の差分は、 $r_1 + r_2$ となっている。L e は、図 2 (a) に示した受動素子保持領域 1 3 に対応した発熱フィルム 4 の領域を示している。